



20



51



55



57



34



60



61



62



63



64



65



66



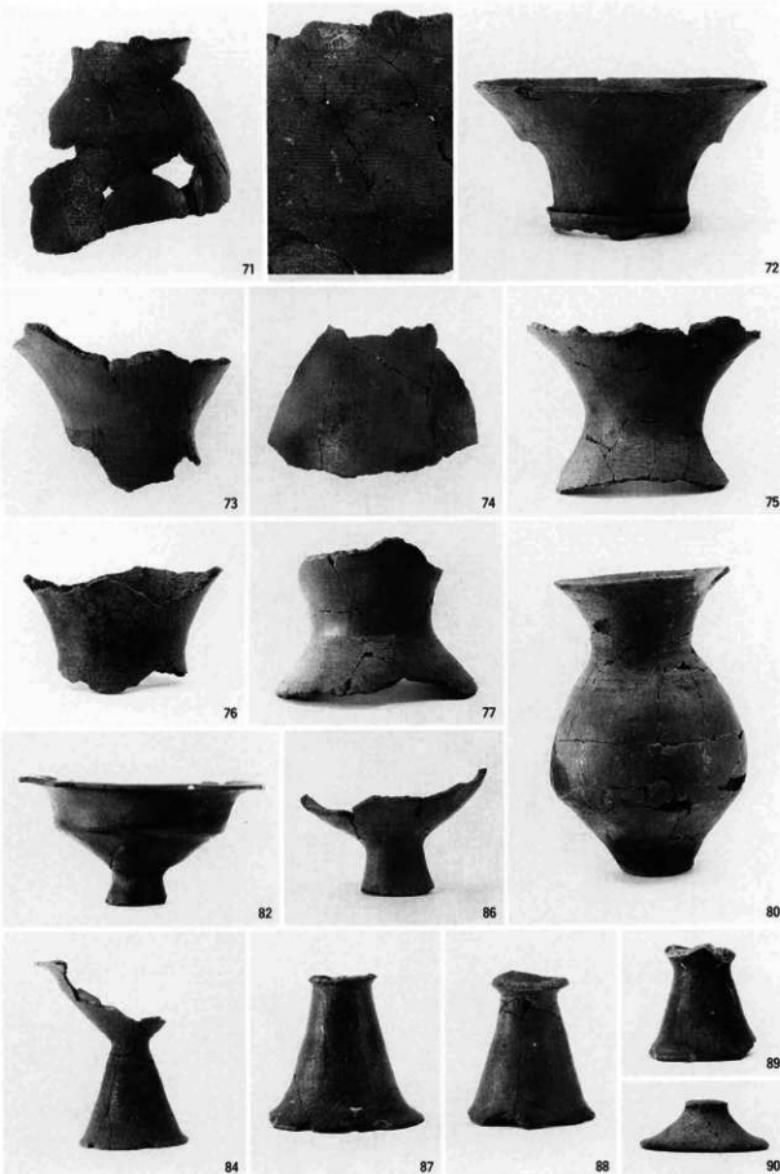
67



68



69





91



94



93



96



97



95



98



99



100



101



102



104



105



106



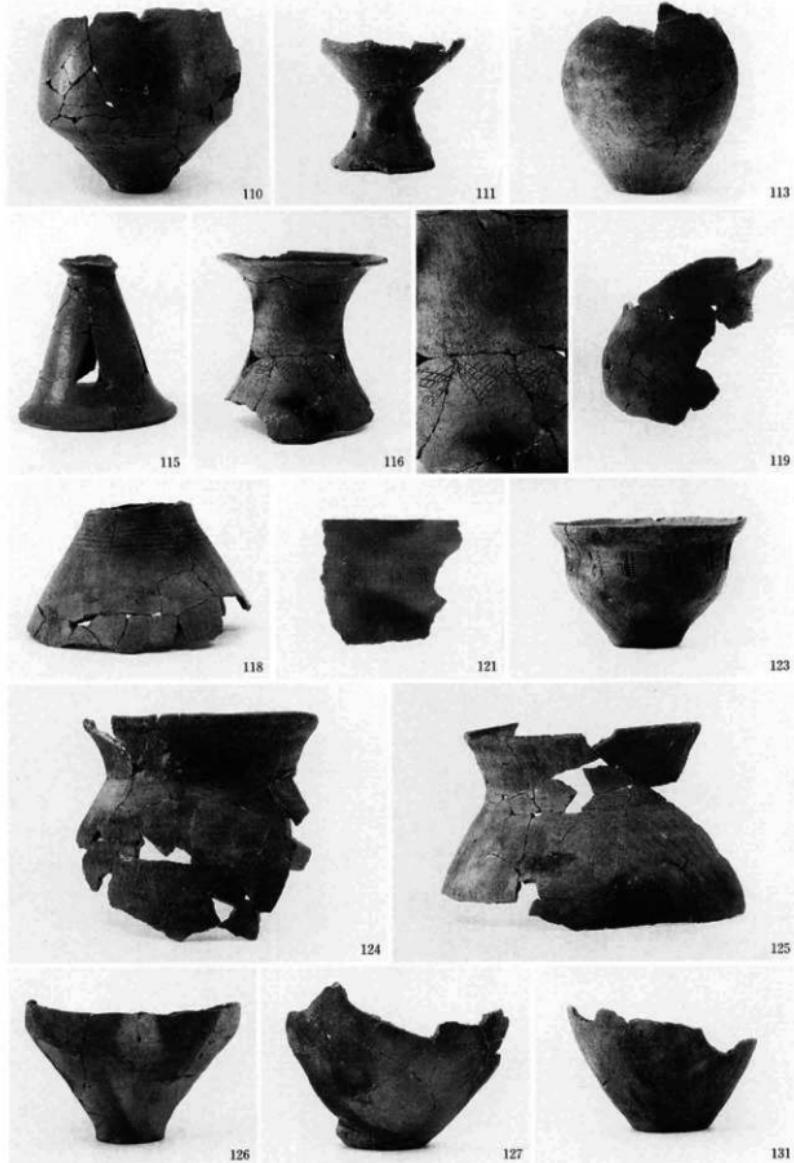
107



108



112





133



134



136



137



138



141



142



143



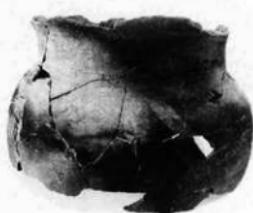
145



146



147



149



150



154



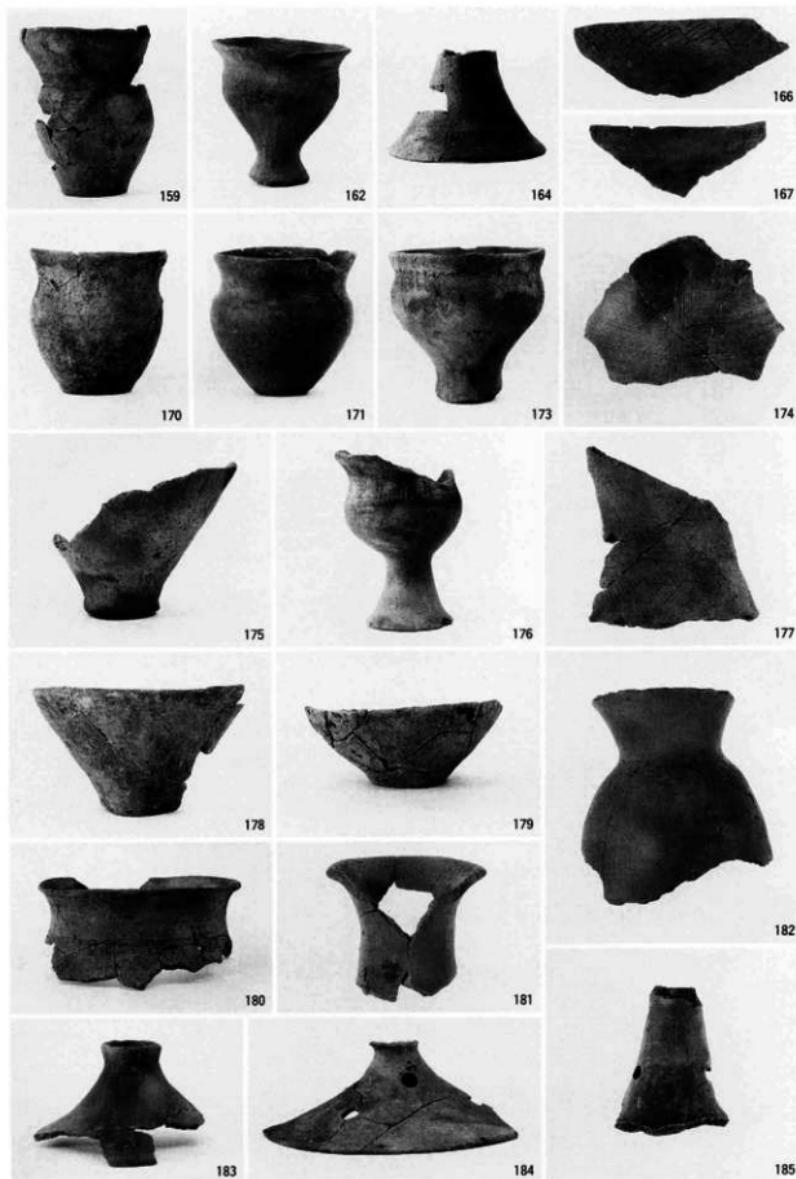
158

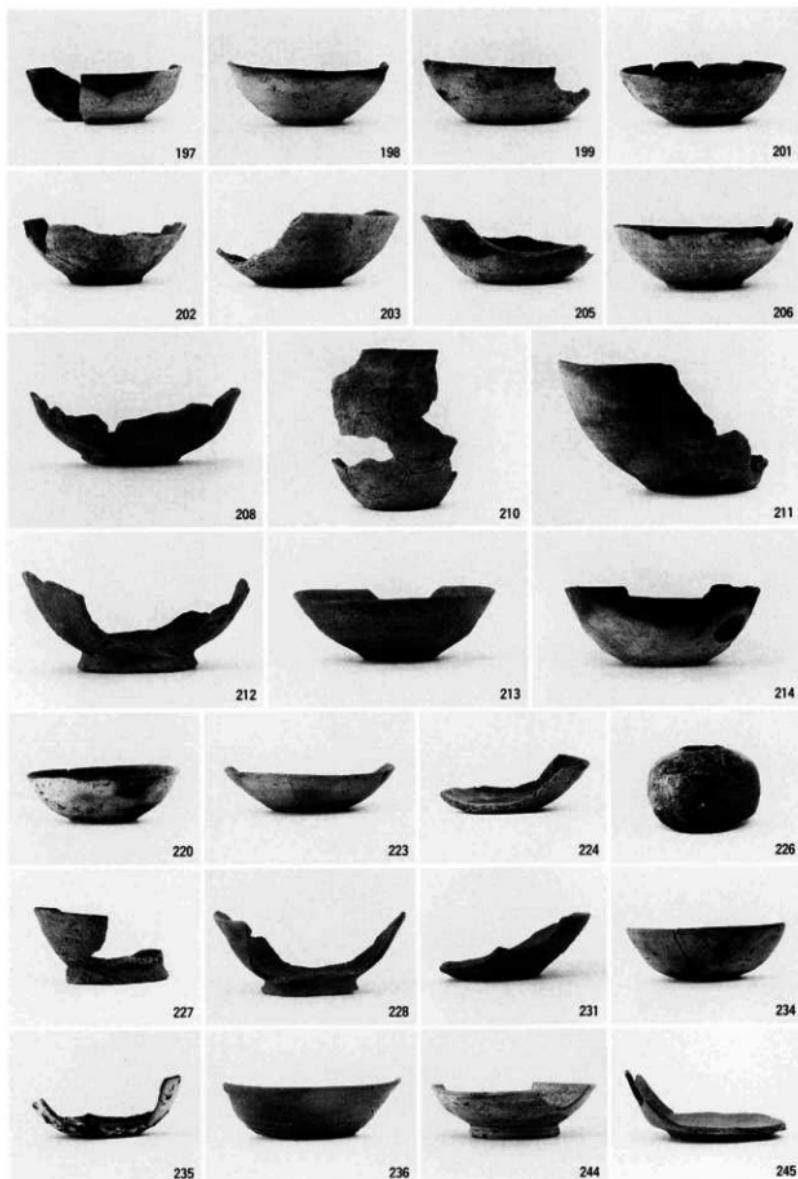


160



161





出土土器觀察表1

No.	器種	口径	底径	高さ	邊有り	地土	成形・調整・文様 (外側)	成形・調整・文様 (内側)
2号住居址								
1	甕	31.3		3.4			口縁端部：赤彩 口縁部：ハケ→螺旋巻き 唇部：楕円軸ねじへ 口縁部：ハケ→螺旋巻き 深部：赤直轄文・斜直轄文 剥離部：螺旋巻き・赤彩	腹巻き・赤彩
2	甕			4.5			口縁部：ハケ→螺旋巻き 深部：赤直轄文・斜直轄文 剥離部：螺旋巻き・赤彩	口縁部：螺旋巻き・赤彩 剥離部：ハケ→ナデ
3	甕	7.6	3.4	1.3			端部：石回り等開拓止め縦状文	ナデ
4	甕	17.9		1.4			端部：石回り等開拓止め縦状文	腹巻き・赤彩
5	甕	15.4		1.3			端部：石回り等開拓止め縦状文→口縁部：波状文 (下→上)・削離部：波状文 (下→下)	ハケ→螺旋巻き
6	甕	11.1		3.4			削離部：石回り等開拓止め縦状文→口縁部：波状文・削離部：波状文	ハケ→螺旋巻き
7	甕	12.8		完			削離部：石回り等開拓止め縦状文→口縁部：波状文 (下→上)・削離部：波状文 (上→下)	腹巻き・赤彩
8	甕	14.1		1.5			口縁部：楕円軸文・削離部：螺旋巻き	螺旋巻き
9	甕	12.6	6.5	○			口縁部：面取りリムナデ 口縁部：螺旋巻き・ナデ 剥離部：ハケ	口縁部：螺旋巻き・ナデ 剥離部：ささら状工具による痕跡
10	窓井	26.4		1.5			口縁端部：面取り・凹部・螺旋巻き・赤彩	腹巻き・赤彩
4号住居址								
11	甕	12.4	7.5	完			削離部：削離部・体部：ハケ→螺旋巻き	横ハケ
12	窓井	8.2		2.3			削離部：赤彩	窓井：螺旋巻き・赤彩 剥離部：ナデ？
13	甕			7.3			削離部：螺旋巻き吹付・底部：螺旋巻き	ハケ→螺旋巻き
6号住居址								
14	甕	12.9		1.3			削離部：石回り 3連止め縦状文→口縁部：波状文 (上→下)・削離部：波状文 (上→下)・(削離部に施し施された序号が異なる)	横挽き
15	台形甕	16.1		1.4			削離部：石回り 2連止め縦状文→口縁部：波状文 (上→下)・削離部：波状文 (上→下)	横挽き
7号住居址								
16	甕	14.0	4.9	12.2	4.5		口縁端部：面取りリムナデ 口縁部：横ナデ 削離部：ハケもしくはささら状工具による痕跡・削離部：ナデ	口縁部：ハケ→横ナデ 削離部：ささら状工具による痕跡
17	甕	16.7		2.3			削離部：石回り等開拓止め縦状文→口縁部：波状文 (上→下)・削離部：波状文 (上→下)・右回り等單純な彎曲	口縁部：螺旋巻き・削離部：螺旋巻き→横挽き
18	甕	17.0	5.9	17.6	完		口縁部：面取りリムナデ 口縁部：横ナデ 削離部：ハケ→螺旋巻き 成部：螺旋巻き→ナデ	口縁部：螺旋巻き・削離部：螺旋巻き→残り→残り模様の跡
19	甕			7.4	2.3		削離部：螺旋状文 (直線文+螺旋体・直線文は後に内型捲き推進の可能性あり) 口縁部：側面・直線文+螺旋文の複合波状文・削離部：下部：ハケ→螺旋巻き・底部：鉛・螺旋巻き	口縁部：螺旋巻き・削離部：螺旋巻き→鉛部：ハケ→螺旋巻き
20	甕	15.4		1.3			口縁部：削離部・横ナデ 削離部：ハケ	口縁部：残り・横ナデ 削離部：ナデ・(削離部 or ナデ)
21	甕			5.6	1.3		削離部：ハケ→底部：ハケ (20と同一個体の可能性がさわめて高い)	ナデ？
9号住居址								
22	甕	16.7	6.4	1.3			削離部：削ナデ 体部：ハケ→螺旋巻き	ハケ→残り・螺旋巻き
23	甕	13.7		1.4			口縁部：横凹轄文・螺旋巻き・赤彩 削離部：螺旋巻き・赤彩	口縁部：螺旋巻き・赤彩 削離部：ハケ→ナデ・部分的に削離
10号住居址								
24	台形甕	12.9		3.4			削離部：石回り 2連止め縦状文→口縁部：波状文・削離部：波状文 (上→下)・削離部下半：ハケ→螺旋巻き	横挽き
12号住居址								
25	甕	11.0	5.6	15.0	完		口縁部：削ナデ 底部：直切丁字文 削離部：螺旋巻き・赤彩 底部：ナデ	口縁部：螺旋巻き・赤彩 削離部：ナデ→ナデ
26	台形甕	12.2	8.2	15.4	1.3		削離部：石回り 2連止め縦状文→口縁部：波状文 (上→下)・削離部：波状文 (上→下)・削離部：螺旋巻き	口縁部：残り・螺旋巻き・ナデ
15号住居址								
27	甕	20.0		3.4			口縁部：螺旋巻き・削離部：螺旋巻き	口縁部：螺旋巻き・削離部：ハケ
20号住居址								
28	甕	9.7		3.1			口縁部：LR 轉文 口縁部：ハケ→ナデ 削離部：1枚佛文文題+碧螺沈御焼文 ナデ	1枚佛文文題+碧螺沈御焼文 ナデ
21号住居址								
29	甕	18.2		1.6			口縁部：波状文・(物文勘定) 不定→削離部：石回り 3連止め縦状文	螺旋巻き
30	甕	13.6		3.4			口縁部：螺旋巻き 削離部：螺旋巻き	口縁部：螺旋巻き・ナデ 削離部：ナデ
19号住居址								
31	甕			5.4	1.2		表面削離部・削離部・直切丁字文 削離部：螺旋巻き・赤彩	口縁部：螺旋巻き・赤彩 削離部：残りナデ
32	穿孔甕	23.9	5.4	11.1	1.3		削離部：螺旋巻き・底部：螺旋巻き・底部：螺旋巻き	ハケ→螺旋巻き
33	甕	14.3		1.3			口縁部：波状文 (上→下)・削離部：螺旋巻き文はない	ハケ→螺旋巻き
34	窓井			11.1	3.4		螺旋巻き・赤彩	窓井：螺旋巻き・赤彩 削離部：ナデ
22号住居址								
35	甕	26.9		4.5			口縁部：横ナデ→螺旋巻き 口縁部：螺旋巻き 削離部：螺旋巻き 削離部：横挽き	口縁部：螺旋巻き・削離部：横挽き
36	甕			8.7	3.4		削離部：螺旋巻き・底部：螺旋巻き・底部：螺旋巻き	削離部：ナデ
37	甕	15.9	6.6	20.3	3.4		口縁部：つまみ口以上の横ナデ・横ナデ 口縁部：螺旋巻き (上→下)・右肩の(区画)削離部・螺旋巻き	口縁部：螺旋巻き・削離部：ハケ→螺旋巻き
38	甕	17.9		1.3			口縁部：横ナデ 削離部：石回り等開拓止め縦状文→波状文 (底部詳細不明)	口縁部：残り・螺旋巻き 削離部：螺旋巻き
39	甕			1.2			ハケもしくは横ナデ螺旋巻き	ハケ
40	窓井			1.2			ハケ→螺旋巻き・赤彩	ハケ→ナデ
23号住居址								
41	甕	15.7		1.4			口縁部：残り・螺旋巻き 削離部：横ナデ 削離部：螺旋巻き 削離部：螺旋巻き	螺旋巻き
42	甕	11.5		1.3			口縁部：ハケ→横ナデ 削離部：ハケ→ナデ	口縁部：螺旋巻き・削離部：ハケ→螺旋巻き
43	甕	14.5		1.4			口縁部：螺旋巻き 削離部：波状文 (上→下)・削離部：石回り 2連止め縦状文	丁寧な螺旋巻き
44	甕	16.5		1.3			口縁部：面取り→ハケ 口縁部：螺旋巻き	ハケ
45	体	15.2		1.10			丁寧な螺旋巻き	丁寧な螺旋巻き
46	窓井	19.5		1.4			螺旋巻き・赤彩	螺旋巻き・赤彩
47	窓井	14.7		2.3			螺旋巻き・赤彩	螺旋巻き・赤彩
48	窓井	21.0		1.3			螺旋巻き・赤彩	螺旋巻き・赤彩
49	窓井	20.0		1.2			螺旋巻き・赤彩	螺旋巻き・赤彩
50	窓井			9.9	1.3		螺旋巻き・赤彩・左肩に孔の円形溝孔	ナデ
51	窓井			14.2	完		螺旋巻き・赤彩 三角形透孔4	ナデ
52	窓井			13.4	完		螺旋巻き・赤彩	ナデ
24号住居址								
53	小口甕	11.5		1.4			螺旋巻き・赤彩	口縁部：螺旋巻き・赤彩 削離部：螺旋巻き
54	小口甕	15.0		1.4			螺旋巻き・赤彩 口縁部に2孔・1孔・1孔の製鉢孔あり	口縁部：螺旋巻き・赤彩 削離部：螺旋巻き
55	台形甕	10.9		1.5			口縁部：面取り 削離部：口縁部 (右肩)・波状文 (下→下)	削離部
56	台形甕	13.7		1.3			螺旋巻き文 (下→下)・右肩の区画草加施文	螺旋巻き

出土土器觀察表 2

No.	器種	口径	底径	脚高	底厚度	軸寸	直形・圓渦・文様(外側)	直形・圓渦・文様(内面)
57	台付甕	14.8			1.3		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文・脣部: 流状文 (上→下) 右側の区画單位施文	横挽引き
58	台付甕	13.6			1.2		頭部: 右回り 4 池止め縦状文→口縁部: 流状文 (施文単位間に施文順序異なる)・右側の区画單位施文	ハケ・横挽引き
59	甕	21.4			1.6		口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (下→上)・脚部: 流状文 (上→下)・頭部: 流状文 (施文単位間に施文順序不定)・脣部: 流状文 (上→下)	口縁部: 橫挽引き・脣部: 横挽引き
60	甕	16.5			1.4		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (施文順序不定)・脣部: 流状文 (上→下)	口縁部: 橫挽引き・脣部: 横挽引き
61	甕	15.6	6.1	16.3	完		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	口縁部: 橫挽引き・脣部: 横挽引き
62	甕	16.3	6.0	18.7	2.3		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	口縁部: 橫挽引き・脣部: 横挽引き
63	甕	13.5	5.1	14.5	完		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)・頭部: 右回り 4 池止め縦状文・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	口縁部: 橫挽引き・脣部: 横挽引き
64	甕	16.5	6.6	18.7	3.4		頭部: 右回り 3 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)・頭部: 右回り 2 連止め縦状文	横挽引き
65	甕	17.4			1.4		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (下→上)・脣部: 流状文 (下→上)・脚部: 流状文 (下→上)	横挽引き
66	甕	14.4	7.2	21.2	完		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	横挽引き
67	甕	17.0			1.4		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	横挽引き
68	甕	10.7	3.5	5.0	5.4		脇部: 流状文 (施文順序不定)・脇部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)	ハケ・横挽引き
69	甕	13.9	4.6	5.8	2.3		脇部: 流状文 (施文順序不定)・脇部: 流状文 (上→下)	横挽引き・赤彩
70	甕	12.9	4.2	7.2	3.4		脇部: 流状文 (施文順序不定)・脇部: 流状文 (上→下)	横挽引き・赤彩
71	甕				1.3		口縁部: 花唐草・赤彩 脇部: 直縞文 3 →コンバスト文の底状文 (直縞文は底部に施文略記の可能性大)・脇部: 流状文 (上→下)・脣部: 流状文 (上→下)・脚部: 流状文 (上→下)	口縁部: 挑書き・赤彩 脇部: 挑書き・赤彩 脚部: 挑書き・赤彩
72	甕	27.6			完		人の可能性大 (口縁部: 橫挽引き・脇部: 流状文 (上→下)の区画間に施文)・脇部: 流状文 (施文順序不定)・脇部: 流状文 (上→下)・脇部: 流状文 (上→下)・脇部: 流状文 (上→下)	横挽引き
73	甕				2.3		口縁部: ハケ・横挽引き・脇部: 橫羅丁文字 (一本一封)	ハケ・横挽引き
74	甕				1.3		脇部: 朝顔子・横羅丁文字 (一本一封)	横挽引き
75	甕				完		口縁部: 花唐草・赤彩 脇部: 橫羅丁文字 (一本一封)	花唐草・赤彩
76	甕				3.4		口縁部: 花唐草・赤彩 脇部: 橫羅丁文字 (一本一封)	花唐草・赤彩
77	甕				完		口縁部: 花唐草・赤彩 脇部: 橫羅丁文字 (一本一封)	花唐草・赤彩
78	甕	30.9	12.4	70.5	3.4		口縁部: ハケ・花唐草・脇部: 橫羅丁文字 (底状文) 脇部上半: 花唐草・赤彩 脱部: ハケ・花唐草	口縁部: ハケ・花唐草・脇部: 挑書き・赤彩 脱部: ハケ・花唐草
79	甕	32.0	10.6	64.5	完		口縁部: 花唐草・赤彩 脇部: 橫羅丁文字 (底状文) 脱部: ハケ・花唐草	口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: ハケ・花唐草
80	甕	18.0	7.3	28.8	4.5		口縁部: 花唐草・赤彩 脱部: 橫羅丁文字 (一本一封) 脱部上半: 花唐草・赤彩 脱部: ハケ・花唐草	口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: ハケ・花唐草
81	甕	22.7			2.5		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
82	高杯	26.8			3.4		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
83	高杯	27.6			1.3		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
84	高杯	24.9	14.1	23.9	1.2		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
85	高杯				2.2		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
86	高杯				1.2		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
87	高杯				15.7		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
88	高杯				1.3		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
89	高杯				8.9		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
90	甕	6.7			2.4	完	脇部: 花唐草	花唐草・赤彩
26号住居跡								
91	甕				1.4		頭部: 薄切り 7 文字→円形浮文 脱部: 花唐草・赤彩	花唐草
92	甕				3.4		脇部: 花唐草	ハケ・ナデ
93	甕				3.4		口縁部: ハケ・ナデ 脱部: 花唐草・赤文 脱部: 花唐草・赤彩	口縁部: 花唐草・赤彩 脱部: ナデ
27号住居跡								
94	甕	20.2	6.3	26.9	2.3		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (上→下)・脇部: 花唐草・赤文 脱部: 右回り 3 連止め縦状文	口縁部: 花唐草・脇部: 花唐草・脱部: 花唐草
30号住居跡								
95	甕	33.6			3.4		口縁部: ハケ・粗い挽書き 脱部: 橫羅丁文字 (一本一封) 脱部: 花唐草・赤彩	口縁部: ハケ・横挽引き 脱部: ハケ・ナデ
96	甕	18.5			2.3			花唐草
97	甕				1.3		口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: 脱り付け変形→円形浮文	口縁部: 花唐草・赤彩 脱部: ハケ・ナデ
98	甕	22.1			3.4		脇部: 挑書き・赤彩 脱部: 橫羅丁文字 (一本一封) 脱部: 花唐草	花唐草・粗引不明
99	甕	28.6			完		脇部: 脱羅小文字→口縁部: 流状文 (上→下)・脇部: 脱羅小文字 (底状文) 脱部: 脱羅小文字 (上→下)・脇部: 脱羅小文字 (上→下)	口縁部: 挑書き・脱羅小文字 脱部: ハケ・花唐草
100	甕	19.0			1.3		頭部: 右回り 3 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (下→上)	横挽引き
101	甕	16.0			3.4		口縁部: 脱羅小文字 (上→下)・脇部: 右回り 3 連止め縦状文	ハケ・挽書き
102	甕	13.6			1.2		口縁部: 脱羅小文字 (上→下)・脇部: 脱羅小文字 (上→下)・脇部: 右回り 3 連止め縦状文	丁字型・横挽引き
103	甕				14.7		脇部: 脱羅小文字・脇部: 流状文 (上→下)・脇部: 脱羅小文字 (底状文)	ハケ・ナデ
104	甕	13.7			1.3		口縁部: 脱羅小文字 (上→下)・脇部: 流状文 (上→下)	花唐草
105	甕	15.2			1.4		口縁部: 流状文 (上→下)・脇部: 流状文 (上→下)・脇部: 右回り 3 連止め縦状文	横挽引き
106	甕	15.4			1.3		頭部: 右回り 2 連止め縦状文→口縁部: 流状文 (下→上)	横挽引き
107	林	11.2	5.2	5.3	1.2		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
108	林	14.2	4.3	5.9	1.2		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
109	甕	17.5			5.6		脇部: 花唐草・赤彩	口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: ハケ・ナデ
110	甕				7.3		脇部: 花唐草・赤彩	ハケ・ナデ
111	高杯	9.0			2.3		脇部: 花唐草・赤彩 脱部: 脱羅小文字 (底状文)	花唐草・赤彩・脱羅小文字 (底状文)
112	甕				7.8		ハケ・粗引・挽書き・赤彩	ハケ・ナデ
113	甕				8.1		頭部: 右回り 3 連止め縦状文 脱部: 流状文 (上→下)	花唐草
114	高杯	27.8			1.3		脇部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩
115	高杯				19.4		脇部: 花唐草・赤彩 三角形透孔 4	花唐草・花唐草・赤彩 脱部: 花唐草・ナデ
32号住居跡								
116	甕	20.2			完		口縁部: 挑書き 唇部: 脱羅小文字・台回り 脱部: 脱羅小文字 脱部: 挑書き	口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: ハケ・ナデ
117	甕	20.2			2.3		口縁部: 花唐草 唇部: 脱羅小文字	花唐草
118	甕				完		脇部: 花唐草・丁字型 脱部: 挑書き	ハケ・ナデ
119	甕	18.0	6.1	23.1	1.3		口縁部: 楊柳字 唇部: 右回り等間止め縦状文 脱部: 脱羅小文字	口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: 挑書き
120	台付甕	11.6			3.4		口縁部: 挑書き・赤彩 脱部: 流状文 2 休部: 流状文 3 脱部: 花唐草・赤彩	花唐草・赤彩

出土土器觀察表 3

名	器種	口径	底径	高さ	直徑	新土	成形・調整・文様(外側)	成形・調整・文様(内側)
121	衆	17.1		1.4			口縁部: 横ナデ 頭部: 右回り 2 渡止め縦状文・口縁部: 波状文・側部: 波状文・腹部: 縦状文	横筋書き
122	杯	11.8		1.4			口縁部: 横ナデ 頭部: 右回り 2 渡止め縦状文・側部: 腹筋書き	腹筋書き
123	杯	14.4	5.1	8.7	5.1	定	口縁部: 横ナデ 頭部: 右回り 2 渡止め縦状文・側部: 腹筋書き	腹筋書き
124	衆	24.6					頭部: 右回り 2 渡止め縦状文 (上→下)・口縁部: 波状文 (下→上)・側部: 波状文 (上→下)	口縁部: 横筋書き 頭部: ハケ→横筋書き
125	衆	23.1		1.3			頭部: 右回り 2 渡止め縦状文 2 (上→下)→(1)頭部: 波状文 (下→上)・側部: 波状文 (上→下)→(2)腹部: 縦状文	ハケ→横筋書き
126	衆			8.5		定	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ
127	衆			9.0		1.3	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ
128	衆	10.1	3.3	4.3	3.2		腹筋書き・水彩	腹筋書き・水彩
129	杯			3.7	2.3		腹筋書き・水彩	腹筋書き・水彩
130	衆			9.0	1.3		ハケ→腹筋書き	ナデ→腹筋書き
131	衆			6.4	2.3		腹筋書き	ナデ
132	衆			6.5	1.3		腹筋書き	横筋書き
133	高杯						腹筋書き・水彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
134	高杯						腹筋書き・水彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
135	高杯						腹筋書き・水彩	ナデ
136	高杯			8.3	1.3		腹筋書き・水彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
137	高杯			8.5	1.3		腹筋書き・水彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
3号住居跡								
138	衆	15.0		1.3			口縁部: 横ナデ 頭部: 右回り等間隔止め縦状文・胸部: 波状文	腹筋書き
34号住居跡								
139	高杯	17.6		1.4			腹筋書き・水彩	腹筋書き・水彩
4号住居跡								
140	衆	10.8	5.4	4.7	4.7		腹筋書き・水彩	腹筋書き・水彩
141	衆	14.0		1.4			○口縁部: 横ナデ 頭部: ハケ	口縁部: ハケ 頭部: 横筋書き
142	高杯			14.8	3.4		腹筋書き・水彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ハケ→ナデ
143	衆	35.3		1.2			口縁部: 腹筋書き・赤彩 頭部: 横筋直線文	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頭部: ナデ
144	衆	16.3		1.5			口縁部: 横筋直線文・頭部: 横筋書き	口縁部: 横筋直線文・頭部: ナデ
145	衆	13.0		1.4			口縁部: 2 個一対の円形浮文・4 本一組の複数弦沈線・腹筋書き・赤彩	竹管による油被刺突 横ナデ
146	広口衆	12.8	5.7	11.6	3.4		腹筋書き・水彩	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: 摩擦不明
147	広口衆	12.6	6.6	11.6	3.6	定	腹筋書き・水彩	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: 腹筋書き
148	衆	16.2		1.5			口縁部: 波状文 (下→上)・頭部: 右回り等間隔止め縦状文	腹筋書き
149	衆	26.4		2.3			口縁部: 波状文 (下→上)・頭部: 右回り 3 渡止め縦状文	腹筋書き
150	衆	13.6		1.6			口縁部: 波状文 (下→上)・頭部: 右回り 3 渡止め縦状文	腹筋書き
151	斬跡衆	8.2	3.8	8.1	1.4		腹筋書き・赤彩	ハケ→腹筋書き
152	斬跡衆	23.1		1.3			腹筋書き・赤彩	腹筋書き・赤彩
153	斬跡衆			15.6	1.3		腹筋書き・赤彩	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
4号住居跡								
154	衆	16.7		1.4			口縁部: 波状文 (上→下)・胸部: 右回り 2 渡止め縦状文	横筋書き
155	衆	11.9		1.2			頭部: 縱状文・口縁部: 波状文	横筋書き
156	高杯			8.4	3.4		腹筋書き・水彩	波状評議不明
5号住居跡								
157	衆			1.3			頭部: 等間隔羽根文→腹筋文	腹筋評議不明
44号住居跡								
158	衆	22.5		2.3			口縁部: ハケ→ナデ 腹筋: 横筋直線文・堅衝文 頬部: 腹筋書き	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ハケ→ナデ
159	衆	13.8	6.1	16.2	1.2		口縁部: ハケ→ナデ 頭部: 横筋直線文?	ハケ→ナデ
160	広口衆	11.3		1.4			口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: 右回り等間隔止め縦状文 頬部: 腹筋書き・赤彩	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
161	衆			5.5			頭部: 縱状文→腹筋書き	ハケ→腹筋書き
162	台付衆	9.3		1.6			口縁部: ハケ→ナデ 頭部: 右回り等間隔止め縦状文 頬部: 波状文→腹筋書き	ハケ→腹筋書き
163	高杯	14.4		1.3			腹筋書き・赤彩	腹筋書き
164	高杯			11.1	1.2		腹筋書き・赤彩	ハケ→横ナデ
165	高杯			13.4	1.3		腹筋書き・赤彩	腹筋書き
47号住居跡								
166	衆	21.0		1.4			口縁部: ハケ→ナデ 腹筋: 横筋直線文	腹筋書き
167	衆	16.6		1.5			頭部: 縱状文・口縁部: 波状文 (上→下)	腹筋書き
168	高杯			1.4			横筋直線文 3 →波浪被刺突	环部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ナデ
169	高杯			12.1	1.3		腹筋書き・赤彩 三角形透孔	ナデ
48号住居跡								
170	衆	10.6	4.5	12.0	4.5		波状評議不明	横筋書き
171	広口衆	12.0	4.5	12.0	1.0	完	腹筋書き・赤彩	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: 横筋書き
50号住居跡								
172	衆	12.0		1.4			口縁部: 横ナデ 頭部: ナデ	口縁部: 横ナデ 頭部: ハケ→ナデ
173	台付衆	10.0		1.4			口縁部: 縱状文・胸部: 波状文 (上→下)・頭部: ハケ→腹筋書き	横筋書き
51号住居跡								
174	衆			1.4			口縁部: ハケ→腹筋書き 頭部: 横筋直線文	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ハケ→ナデ
175	矛孔衆	17.8	6.0	11.8	1.3		体部: ハケ→ナデ 腹筋: 猛禽頭穿孔	ハケ→ナデ
176	台付衆	12.1	8.0	16.8	3.4		頭部: 右回り 2 渡止め縦状文・口縁部: 波状文 (下→上)・側部: 波状文 (上→下)・脚部: 腹筋書き	腹筋書き
53号住居跡								
177	衆			1.4			口縁部: ハケ→腹筋書き 頭部: 横筋直線文	口縁部: 腹筋書き・赤彩 頬部: ハケ→ナデ
178	杯	16.8	6.0	16.0	1.3		腹筋書き・赤彩	腹ナデ・赤彩
1号墓								
179	杯			13.7	5.7	6.4	定	牟礼評議不明
3号墓								
180	衆			17.6	4.5		口縁部: ハケ→ナデ 頭部: 右回り 2 渡止め縦状文・胸部: 波状文	ハケ→横筋書き
181	衆			13.2			口縁部: LR 読文 1 口縁部: ハケ→腹筋書き	口縁部: LR 読文地文→握筋山形文
182	衆			3.4			腹筋書き	口縁部: 腹筋書き 頬部: ハケ→ナデ

出土土器觀察表 4

No.	器種	口径	底径	器高	底存底	厚さ	成形・調整・文様(外觀)	成形・調整・文様(内面)
183	壺	17.1		6.7	1.3		施縫き	施縫き
南堀								
184	高环	19.8		1.4			施縫き 円形透孔3孔一段	ハケ→ナデ
B区検出面								
185	高环			1.3			○ 直縫文3 円形透孔 施縫き・赤彩	ナデ
186	壺	22.4		1.0			粘土面貼り付け複合1縫 縫方向の荒筋帯模	施縫き・赤彩
187	壺	12.5		1.6			○ 増ナデ	ハケ→横ナデ
188	壺	16.6		1.4			1縫端部:強い傾ナデ 口縫部:ハケ	ハケ→横施縫き
189	壺	16.6		1.10			施縫き	ナデ
190	壺			1.10			施縫き・赤彩	施縫き・赤彩
191	壺	14.2		1.10			口縫部:強い傾ナデ 桶部:ハケ	口縫部:ハケ→ナデ 桶部:施縫き
192	壺	11.4		1.10			施縫き	横ナデ
193	高环	16.2		1.10			○ 施縫き 円形透孔	横ナデ 不明
194	高环			2.3			施縫直縫文 撥糞跡不明	施縫
195	高环			2.3			施縫き	施縫き
196	高环			2.3			施縫き	施縫き
1号住居址								
197	杯	11.0	6.7	4.2	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
198	杯	11.7	6.2	4.1	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
199	杯	12.4	5.6	4.8	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
200	杯	12.5	5.6	4.8	3.4		施縫ナデ	施縫ナデ
201	杯	12.5	5.3	4.0	完		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
202	杯	12.6	5.5	4.7	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
203	杯	12.9	5.5	4.7	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
204	杯	13.0	6.8	6.5	1.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
205	杯	13.0	5.9	4.4	2.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
206	杯	13.4	5.7	5.0	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
207	杯	16.2	6.8	5.6	1.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
208	杯			5.8	2.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
209	灰陶鉢			7.0	2.3			施縫ナデ
210	壺	10.6	6.5	14.4	1.3		施縫ナデ→施縫り 底部:回転系切り→静止縫り	施縫ナデ
211	杯	25.7	9.7	13.1	1.4		施縫ナデ→静止縫り 底部:ナデ→静止縫り	施縫き→黑色処理
8号住居址								
212	杯	15.4	7.4	6.2	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
213	杯	11.0	4.2	3.9	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
16号住居址								
214	杯	12.4	5.6	5.0	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
215	杯	12.2			1.3		施縫ナデ	施縫き→黑色処理
216	杯	13.8			1.5		施縫ナデ	施縫き→黑色処理
217	杯			6.0	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
218	杯			7.0	1.3		施縫ナデ→回転削り	施縫き→黑色処理
17号住居址								
219	杯	12.0	6.0	4.1	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
220	杯	12.7	5.8	4.1	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
221	杯	12.2	5.8	4.2	完		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
222	杯	12.8	6.2	4.3	1.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
18号住居址								
223	直縫杯	11.9	5.3	3.1	3.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
224	杯	12.2	5.4	3.3	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
225	杯	12.1	5.6	4.9	1.3		施縫ナデ→回転削り 底部:回転削り→ナデ	施縫き→黑色処理
226	直縫杯				3.4		施縫ナデ	施縫ナデ
49号住居址								
227	杯	16.0	6.4	4.6	1.2		施縫ナデ	施縫き→黑色処理
228	杯	14.6	7.2	6.3	3.4		施縫ナデ	施縫き→黑色処理
229	壺	10.4			1.5		ハケ→ナデ	ナデ
230	台付壺			8.3	1.2		施縫き	施縫き
50号住居址								
231	直縫杯	12.4	5.6	4.0	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
232	杯	12.8	5.8	3.6	1.4		施縫ナデ→回転削り 底部:回転削り→ナデ	施縫き→黑色処理
233	杯	13.8	5.2	4.4	3.5		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
234	杯	15.4	6.6	5.1	1.3		施縫ナデ→回転削り 底部:回転削り→ナデ	施縫き→黑色の理
235	杯	12.6	6.0	4.5	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色の理
2号溝								
236	直縫杯	12.0	6.3	3.8	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
2号土塁								
237	直縫杯			5.8	2.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
11号土塁								
238	杯	11.8	5.3	4.3	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
239	杯	12.0	5.0	4.6	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色の理
240	杯	12.8	5.8	4.3	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫き→黑色処理
241	杯	12.8			1.4		施縫ナデ リボン有り	施縫き→黑色の理
B区検出面								
242	直縫杯	14.2	7.0	3.7	1.3		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
243	直縫杯	13.4	5.8	3.6	1.4		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ
244	灰陶鉢	12.4	6.4	3.9	3.4		施縫ナデ	施縫ナデ
245	直縫杯	12.0	6.2	4.1	1.2		施縫ナデ 底部:回転系切り	施縫ナデ

3 石器

各時代の造構が激しく重複する当遺跡のあり方から判断して、出土資料を直接造構に連関させることには危険が伴う。ここに報告する資料には、縄文時代から弥生後期にいたるまでの各時代遺物が混在して含まれていることを前提としておきたい。また、蔽石・砥石類には、さらに時代が下層するものが含まれている可能性がある。

打製石鎌（図61-1～46）

未成品と思われるものや細破片を含めて73点が確認されている。石材別には6割が黒曜石であり、チャート・頁岩類がそれに続く。形態別には無茎が有茎を大きく上回り、先端部を欠損しているものが目立つ。無茎石鎌の多くが縄文時代の遺物となる可能性が考慮される。

磨製石鎌（図62-47～73）

製品21点、未成品（刃部の形成や穿孔が未成のもの）22点、剥片（素材として選別されたもの）23点が確認されている。石材としては、板状に薄く剥離した頁岩や片岩類を利用している。出土造構は各時代にまたがるが、製品等9点が出土したSB-50などの弥生後期前半段階に偏在する傾向を認めることが可能となろう。未成品（47～57）や素材として選別された剥片を伴う点や、先端がきわめて鋭利に研ぎ出された状態の製品（61～65）が認められる点から、製作途上と完成直後のものが大半を占めていると思われる。また、基部両端に抉りを施すもの（68～71）や有茎のもの（72）が含まれている点は注意される。

磨製石包丁（図63-89・90）

2点が確認されている。穿孔を有した背部の破片であり、石材には頁岩類が用いられている。

石匙（図62-74）

チャート製の完形品1点が確認されている。縄文時代の產として誤りない。

石錐（図62-75・76）

破片を含めて5点が確認されている。完形の2点の刃部には、使用に伴う擦痕が観察される。

蔽石（図63-77～80）

蔽打痕を残す棒状自然石（河原石）を蔽石とするが、凹石状の丸石を含めて、17点が確認されている。石材としては安山岩類や砂岩類を利用し、棒状の両端を蔽打面としている。側面に蔽打痕を認める例もある。

砥石類（図63-81～88・91～94、図64-95～103）

硬く滑らかな頁岩類を用いたもの（39点）と砂岩類を用いたもの（112点）の2系統が確認されている。

頁岩系はさらに、線状の擦痕が顕著なもの（81～88）と光沢面が形成されているもの（98～101）に分類できる。前者は小形自然石の曲面をそのまま砥面として利用しているが、形状は多様である。また、サイクロ状になるほど使い込まれたもの（88）も存在する。ミガキ石とも呼ばれ、土器製作に係るヘラミガキ工具であったことが想定される一群である。しかしながら、部分的に光沢面が形成されるとともに蔽打面を有する例（81・82）も存在することから、用途にはさらに幅を持たせるべきであると考え、ここでは砥石（研ぎ磨くための石）として一括する。後者には、小形自然石の平坦部を砥面として1条の縫を切り込んでいるもの（99）と、細長い方柱形の平面を砥面としているもの（100・101）があり、肉眼で観察する限りでは砥面は滑らかで光沢を有する。

砂岩系には、長さ5cmの方形板状のもの（98）を最小として小形品（91～96）、中形品（97）、大形品（102・103）が確認され、形状も多様である。小形品は持砥、中・大形品は置砥として位置づけられる。

この他、扁平片刃石斧・柱状片刃石斧・大型蛤刃石斧・石槌・打製石斧が出土している。（103頁へ続く）

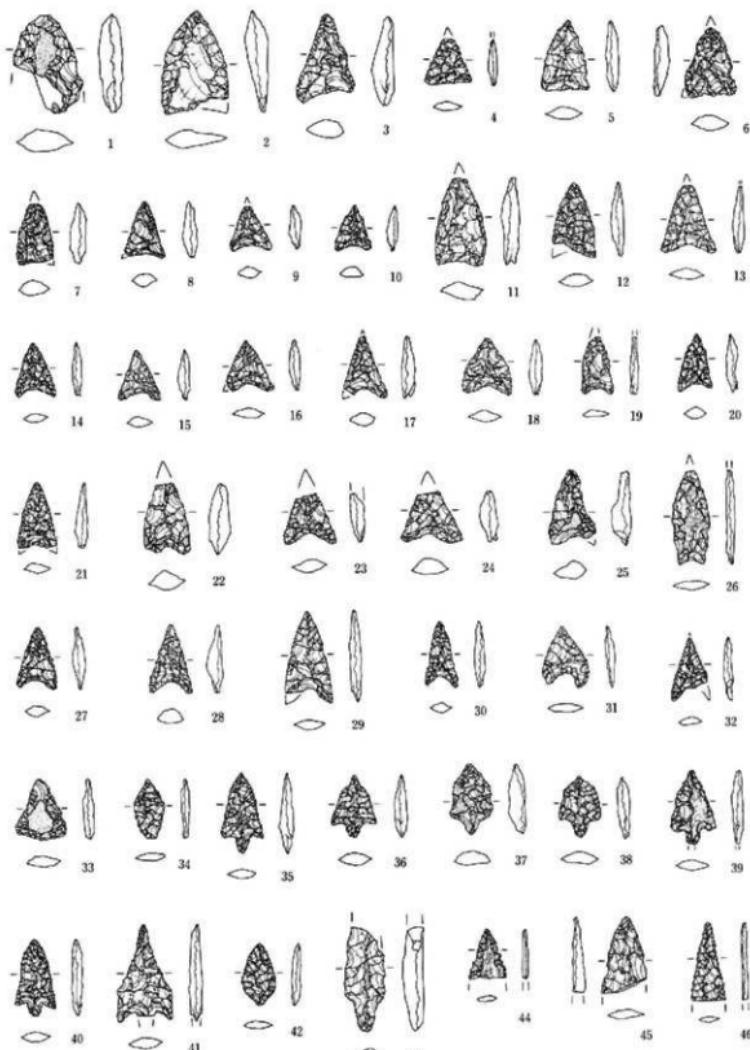


圖61 石器(打製石核)實測圖(2:3)

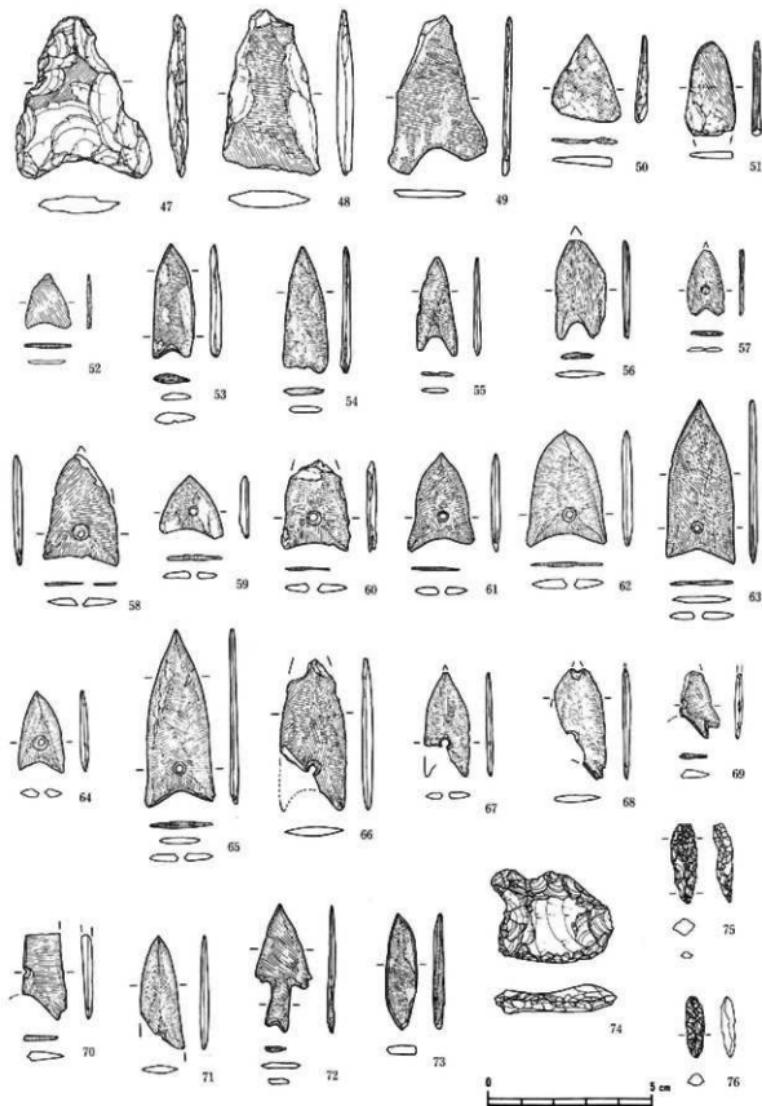


図62 石器（磨製石器・石匙・石錐）実測図（2：3）

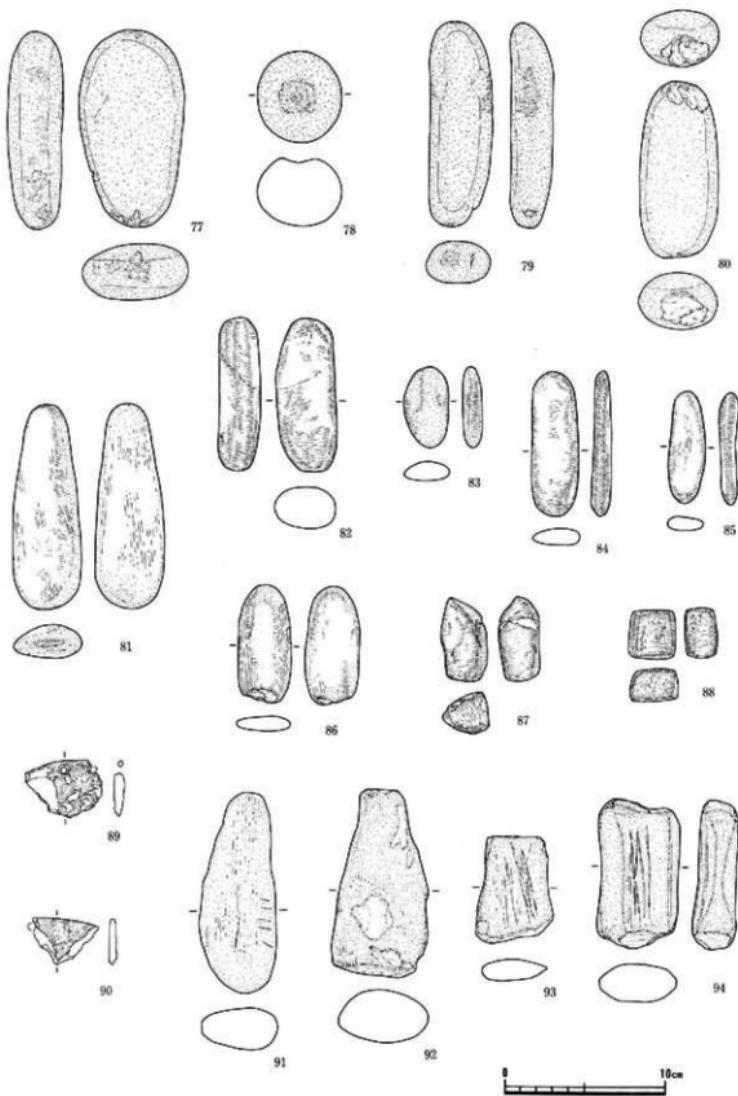


圖63 石器（敲石・砸石類・石包丁）實測圖（1：3）

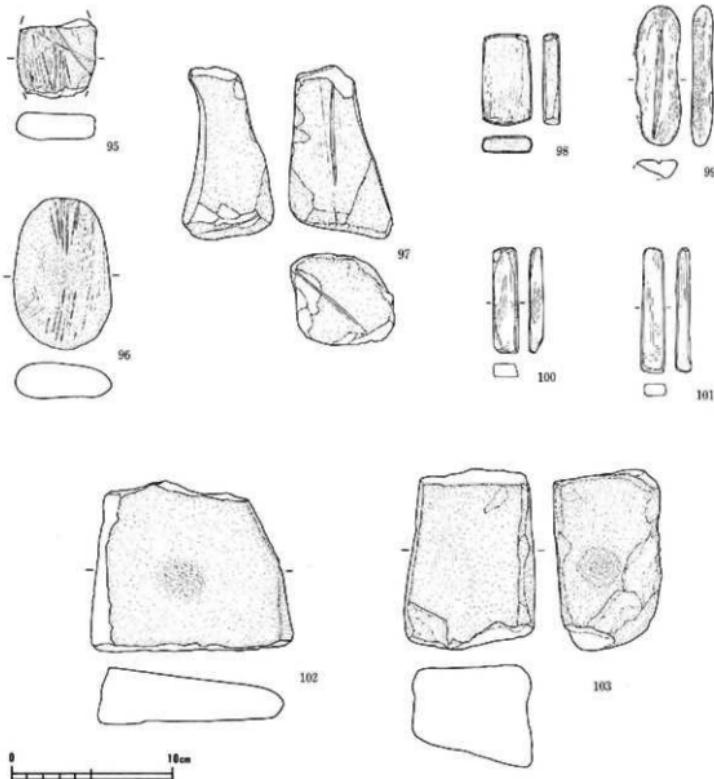


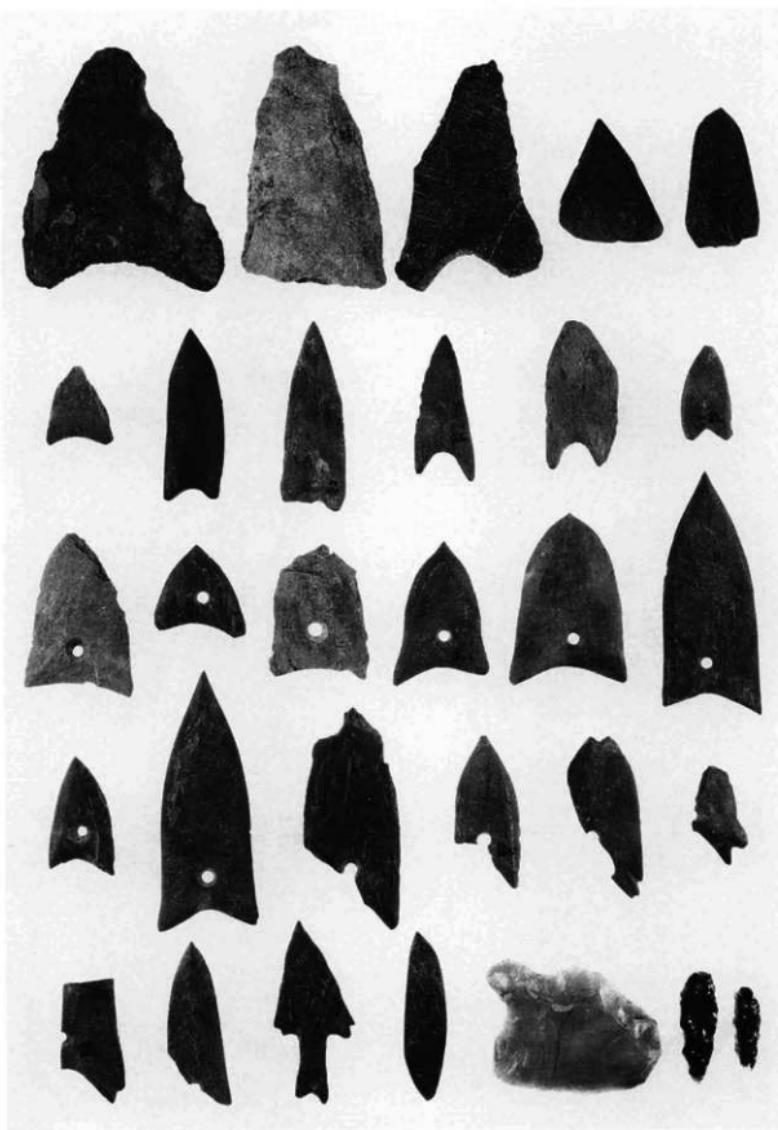
図64 石器(砥石類)実測図(1:3)

No.	器種	石材	出土遺物																	
1	打製石器	黑曜石	S5-2	22	打製石器	黑曜石	S5-19	43	打製石器	安山岩	S5-35	64	磨製石器	磨質岩	S5-52	85	砾石	砂砾岩	S5-11	
2	#	チャート	SK-14	23	#	黑曜石	S5-32	44	#	黑曜石	S5-2	65	#	磨製石器	片岩	B区検出	96	#	砂質岩	S5-41
3	#	黑曜石	S5-41	24	#	頁岩	S5-7	45	#	チャート	S5-47	66	#	砂質岩	SD-6	97	#	硅質頁岩	S5-16	
4	#	黑曜石	S5-47	25	#	黑曜石	S5-3	46	#	チャート	S5-36	67	#	砂質岩	SB-52	88	#	砂質岩	SD-16	
5	#	砾石	S5-53	26	#	砾石	B区検出	47	磨製石器	片板岩	S5-6	68	#	砂質岩	SD-50	89	石片	砾石	S5-43	
6	#	黑曜石	S5-35	27	#	黑曜石	S5-47	48	#	磨質岩	S5-44	69	#	砂質岩	B区検出	90	#	砂質岩	S5-19	
7	#	黑曜石	S5-2	28	#	黑曜石	S5-3	49	#	片板岩	S5-32	70	#	磨製石器	片岩	S5-50	91	砾石	砂質岩	S5-30
8	#	黑曜石	S5-43	29	#	チャート	B区検出	50	#	磨質岩	S5-32	71	#	磨製石器	SD-50	92	#	砂質岩	S5-52	
9	#	頁岩	B区検出	30	#	黑曜石	B区検出	51	#	頁岩	S5-46	72	#	頁岩	S5-35	93	#	砂質岩	S5-41	
10	#	黑曜石	S5-47	31	#	チャート	S5-9	52	#	磨質岩	S5-35	73	#	頁岩	SD-41	94	#	砂質岩	S5-38	
11	#	チャート	B区検出	32	#	黑曜石	S5-11	53	#	片板岩	SD-41	74	石器	チャート	SD-51	95	#	砂質岩	S5-46	
12	#	黑曜石	S5-3	33	#	黑曜石	S5-56	54	#	磨質岩	B区検出	75	石器	黑曜石	SD-51	96	#	頁岩	S5-52	
13	#	頁岩	SK-9	34	#	黑曜石	S5-14	55	#	磨製石器	SD-19	76	#	黑曜石	SD-55	97	#	砂質岩	S5-18	
14	#	黑曜石	B区検出	35	#	黑曜石	S5-9	56	#	磨質岩	SD-52	77	石器	安山岩	SD-52	98	#	砂質岩	S5-46	
15	#	黑曜石	S5-52	36	#	黑曜石	S5-11	57	#	磨質岩	SD-4	78	#	砂質岩	SD-9	99	#	砂質岩	S5-6	
16	#	片板岩	S5-48	37	#	黑曜石	S5-41	58	#	磨質岩	SD-15	79	#	砂質岩	B区検出	100	#	砾石	S5-24	
17	#	チャート	SK-7	38	#	頁岩	S5-53	59	#	頁岩	S5-19	80	#	頁岩	SD-22	101	#	砂質岩	SD-1	
18	#	黑曜石	S5-9	39	#	黑曜石	S5-3	60	#	磨製石器	SD-32	81	砾石	砂砾岩	SD-32	102	#	砂質岩	B区検出	
19	#	黑曜石	S5-52	40	#	頁岩	B区検出	61	#	磨製石器	SD-12	82	#	頁岩	SD-30	103	#	砂質岩	SD-50	
20	#	黑曜石	S5-44	41	#	頁岩	B区検出	62	#	砾石	SD-1	83	#	砂質岩	SD-21					
21	#	黑曜石	S5-41	42	#	チャート	SD-21	63	#	磨質岩	SD-12	84	#	砂質岩	SD-3					

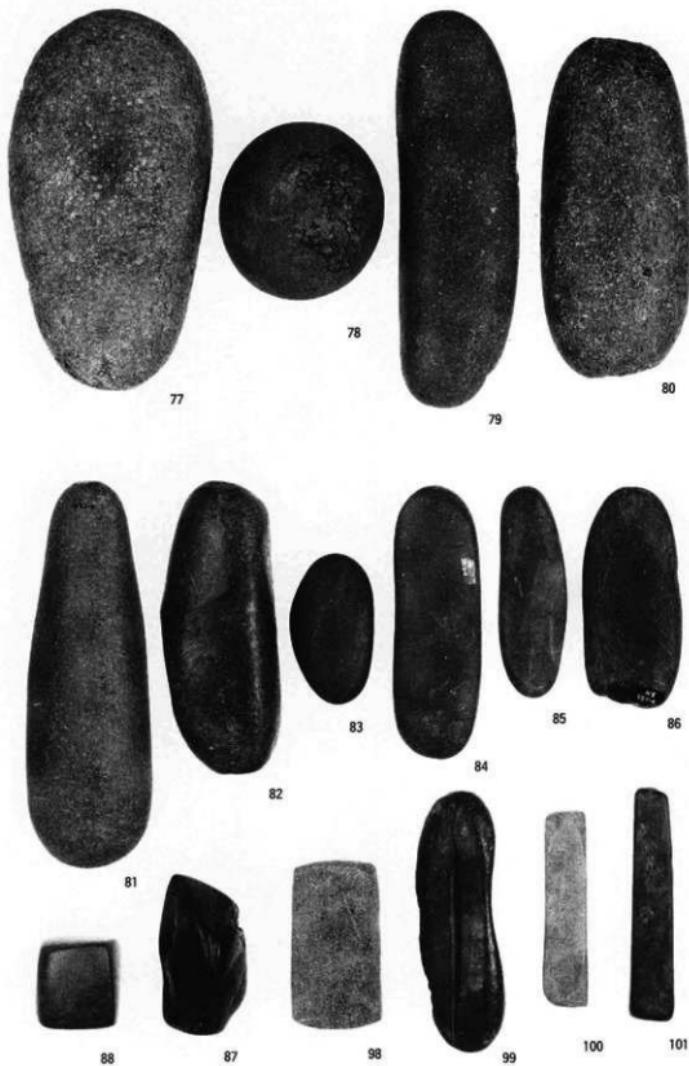
出土遺構等対照表(石材観察: 多羅沢美恵子)



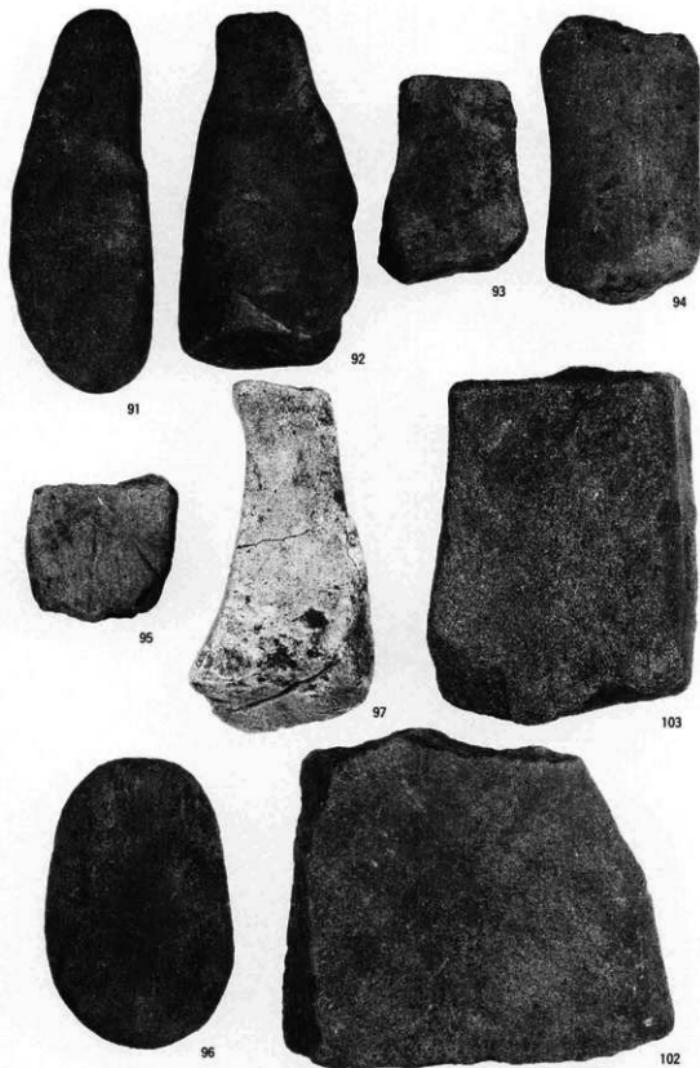
石器写真 打製石簇（約1：1）



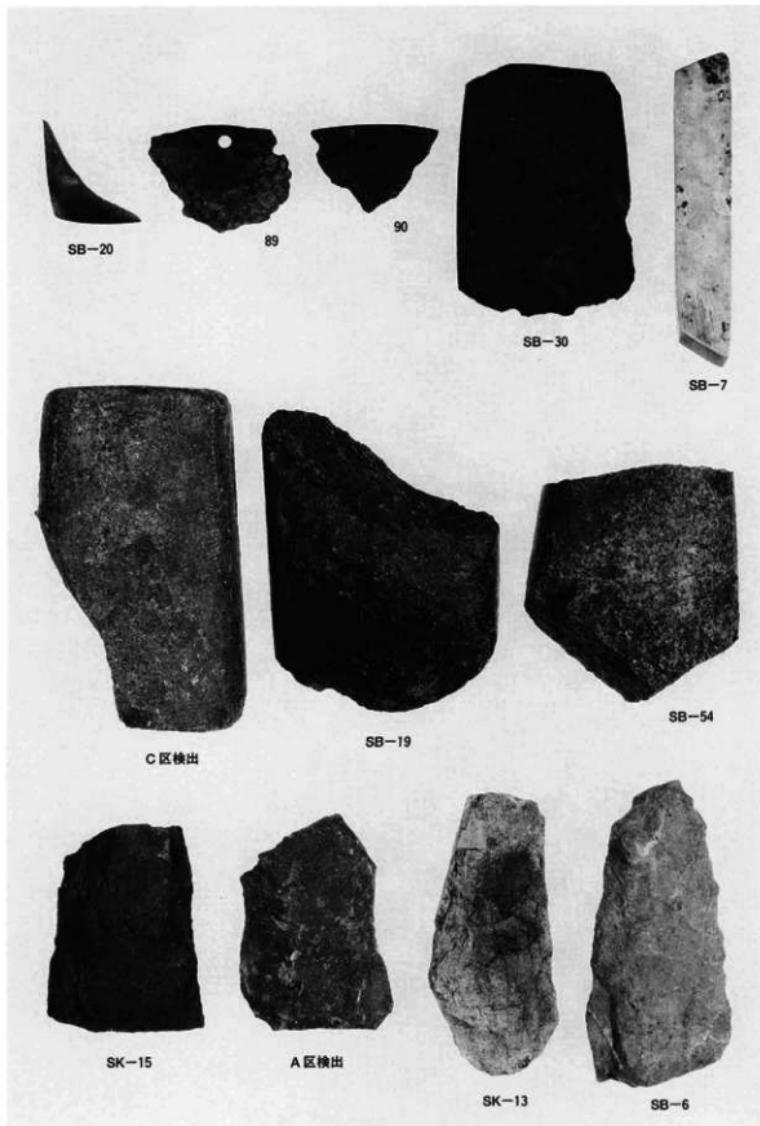
石器写真 磨製石鏃・石匙・石錐（約1：1）



石器写真　敲石・砥石類（約2：3）



石器写真 磚石類（約2：3）



石器写真 石包丁・扁平片刃・柱状片刃・大型蛤刃石斧・打製石斧（約2：3）

(石器写真説明：実測図が未掲載の石器)

扁平片刃石斧：未成品と刃部破片の2点が確認されている。未成品は、刃部幅5.5cm、長さ8cm、厚さ1cmを測る。表裏及び側面の研磨が途上で、刃部の形成には至っていない。

柱状片刃石斧：幅1.8cm、長さ9.5cm、刃先が幅0.9cmと狭小で、小形の盤状を呈する。

大型蛤刃石斧・石槌：石鎚に転用したものを含めて大型蛤刃石斧は4点を確認しているが、うち1点は写真未掲載の小破片である。いずれも欠損品であり、刃部を遺存する個体の刃幅は7cmを測る。

打製石斧：打製石斧と思われる破片3点と、風化の著しい石斧形の石片1点が確認されている。いずれも打製石斧とするなら小形品に属す。なお、前者のうちの2点には使用に伴う磨耗が観察される。

4 玉類

管玉3点と小玉5点（うち2点は細破片、未掲載）が確認されている。

管玉：鉄石英質の細型製品（1）と緑色凝灰岩質の製品（2）と、鉄石英質の破損品（3）があり、穿孔はいずれも片側からと思われる。

小玉：ガラス製で、濃色のコバルトブルーの製品（4）と淡色のライトブルーの製品（5・6）がある。いずれにも気泡が観察され、遺存状態は良好ではない。

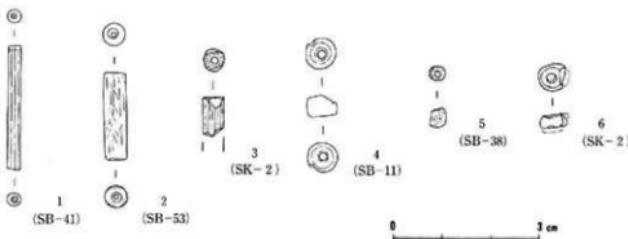
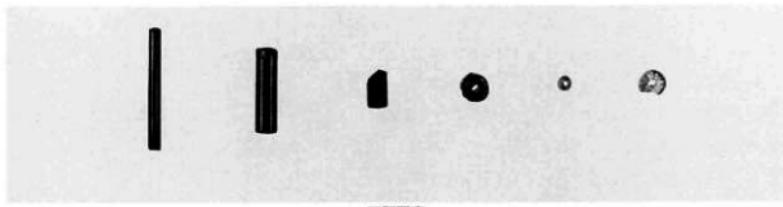


図65 玉類実測図 (1:1)



玉類写真

5 青銅製品

(1) 銅鐵

3号住居覆土上層・24号住居覆土上層・B地区中央部付近検出面よりそれぞれ1点ずつの計3点が出土している。このうち、1点は小型の盤状工具に再加工している可能性があり、他にも再加工痕かとみられる擦痕が観察されるが、製作当初の種別である銅鐵として報告する。

銅鐵1 (SB-30覆土上層出土 図66-1) 有茎三角形鐵である。刃部の一部を欠くがほぼ完形品である。鐵身部は両面に鎌がみられ、茎部は方形を呈する。全長40.5mm、鐵身厚3.2mm、茎部厚1.8mmをそれぞれ測る。茎部は先端に向けて盤状に細くなり、削痕が明瞭に観察される。鐵身部にも若干の削痕が認められるものの、茎部における削痕とは比較にならないほど明瞭で、茎先端部を盤状に再加工した可能性が考えられる。ただし、刃はつけられていない。この茎部の改変に伴ってか、矢柄の装着痕も観察されない。

茎部に朱の付着が観察される。ただし、削痕中に入り込んだ微量の朱であり、朱は當品に塗布されたものではなく、近くに朱が存在して付着したものと考えられる。

銅鐵2 (SB-24覆土上層出土 図66-2) 鐵身部が大きく欠損しており、当初形態は不明である。かろうじて残存している鐵身間部は左右形態が異なる。これはほぼ直角にみえる間部が鋸造後の研磨が不十分な結果で、本来の形態は鋸角な圓形態と捉えられ、銅鐵1と同様に有茎三角形鐵になる可能性が指摘できる。残存全長44mm、茎部長30mm、鐵身厚3.8mm、茎部厚3.7mmを測り、鐵身部・茎部ともに非常に厚い。鐵身部は大きく再加工されており、削痕がよく残る。刃欠損部も整形痕が認められ、大きく改変されていることが観察される。さらに鐵身部には渋曲が認められるが、これが改変によるものか、製作時からのものか定かではない。茎部も鐵身部同様に削痕が明瞭に観察され、本来の茎部形態から大きく改変されている。特に茎端部は両面から削り込まれて刃部をなし、小型の盤状工具に転用されていると考えられる。

銅鐵3 (B地区中央部付近検出面出土 図66-3) 刃部は残存せず、また、茎端部も欠損するなど、残存状況は極めて悪く、全長・鐵身幅・茎部長はもとより本来の形状も明らかにしない。鐵身間部の形態が銅鐵1・2と異なることから小型の柳葉式銅鐵と想定しておきたい。鐵身部は極めて不明瞭ながら両面に鎌がされ、両鎌造りと想定される。茎部に矢柄の装着痕等は観察されない。

(2) 銅鋼

41号住居覆土中より3片出土している。肉眼観察による銅素材ならびにスの入り方等はよく類似し、本来同一個体であった可能性が想起されるが、3片ともに再加工され、接合も認められないことから、それぞれ別個体として報告する。

銅鋼1 (図66-4) 帯状円環型銅鋼の破片である。環帯幅9mm、厚さ2mmを測る。半環状を呈するが、復元される外径は約40mmと極めて小さく、銅鋼としての本来の機能を失った再加工品と考えられる。外面にはスが明瞭に観察される。後述する銅鋼2・3のような付着物は観察されない。

銅鋼2 (図66-5) 幅7mm、厚さ2mmを測る帶状円環型銅鋼の破片である。側面の片側は製作時以来の端部とみられるが、反対側は再加工が加えられており、幅の計測値は本来の幅よりも小さくなっている。中央部のやや短辺により円孔が一ヵ所穿たれている。円孔は外面径2mm、内面径3mmと大きさに違いが認められ、外面円孔周囲には孔形に沿った整形面が観察される。外面から内面に穿孔がなされ、その後、整形が施されているものと考えられる。断面は若干の渋曲が認められるが緩やかで、板状に變された後、円孔を穿ち、垂飾として再生され

たものであろう。

内面および円孔内部には付着物が認められる。この付着物は後述する銅鏡 3 に厚く付着しており、内面のみに付着する等、銅鏡 3 の付着状況と大きく異なっている。

銅鏡 3 (図66-6) 帯状円環型銅鏡の小破片である。端部とみてよい部分が一ヵ所認められるが、残存状況が悪く、本来の形狀復元は難しい。なお、掲載図には銅鏡 1 の側面幅を加えておいた。

湾曲は極めて緩やかであり、通常計測される銅鏡の径から大きくはずれる。小片であるうえ、付着物の存在から表面観察が難しいが、意図的に板状に劈された破片と考えられ、製作時の形態を留めない再加工品である。

掲載実測図のトーン部は付着物を示し、外面のほぼ全面に不明品の固着が認められる。これは銅鏡 2 内面に観察されたものと同一である。

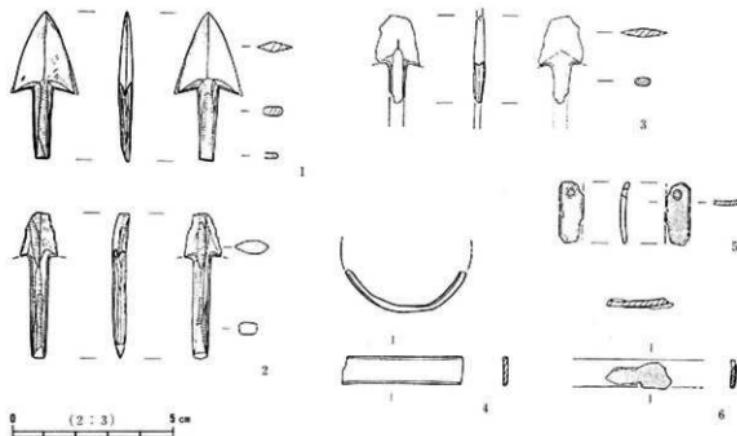
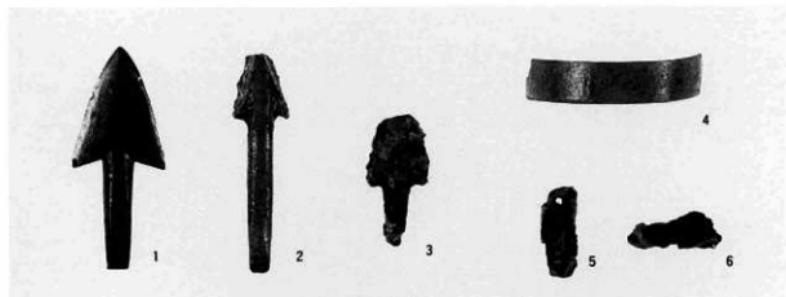


図66 青銅製品実測図 (2 : 3)



青銅製品写真 (約1:1)

6 土製品

土製品観察表

番号	器種	法量(cm)(g)			遺存	形態・整形等	遺構		
		口径	底径	器高					
1	土偶?			6.6	ママ	口が正面で二ヶ背面、両手を広げる、右手吸盤状突起、顎部位の表現なし、背に吸盤上突起1個と山形突起3個を負う、腹部に貫通孔、整形難	SB-32		
2	土鍤	3.2	2.3	7.4	71	ママ	貫通孔上下で口徑に差、ナデ	SK-11	
3	*	2.0	2.0	6.9	51	*	貫通孔直口、ナデ	SK-13	
4	ミニチュア壺			2.1		*	外ハケナデ・ナデ・内ナデ	SB-9	
5	*	*		3.2		*	外ハラミガキ・ハケナデ・内ナデ	SB-11	
6	*	鉢	4.7	1.9	3.3	完形	口縁有段、内外ナデ、石英粒多	SB-14	
7	*	*	3.8	2.7	2.0	*	内外ナデ	SB-16	
8	*	甕	4.6			1/6	外雜ハラミガキ・内ナデ	SB-30	
9	*	鉢	3.9	2.2	2.7	1/2	内外ナデ	*	
10	*	無頸壺	1.1	丸	1.7	1/3	外ハラミガキ・赤彩、内抉り取り	*	
11	*	台付?		2.0		1/4	外ハラミガキ・黒色、内ナデ	*	
12	*	鉢	3.7	2.6	1.8	1/3	内外雜ハラミガキ、石英粒多	SB-38	
13	*	蓋	5.4		1.7	1/6	内外ナデ	SB-45	
14	?取手		1.4			ママ	ハラナデ、赤彩	SB-46	
15	ミニチュア蓋		1.2			*	内外ナデ	SB-47	
16	*	鉢?		2.6		*	外ハラナデ・ナデ・内ナデ	*	
17	*	甕	7.8			1/6	外ハラ描平行線文・波状文・ナデ・内ナデ	SB-51	
18	*	鉢?		2.8		ママ	内外ナデ	SB-54	
19	*	甕?				1/8	外ナデ・内ハケナデ	*	
20	*	鉢	4.7	2.9	2.6	完形	内外ナデ、石英粒多	*	
21	*	壺	0.9	1.1	1.4	*	ナデ、山形文	SK-15	
22	*	台付甕		3.9		ママ	内外ナデ・外変形山形文	SD-1	
23	勾玉		1.2		2.9	完形	ナデ	検出面	
24	筋縫車?					ママ	ハラミガキ	SB-52	
25	半円板		6.3		41	*	弥生甕体部、周囲一部研磨	検出面	
26	円板		5.4		32	*	*	SB-36	
27	半円板		5.8		24	*	*	周囲一部研磨	検出面
28	*		5.1		23	*	*	SB-52	
29	*		4.8		15	*	*	弧線全周研磨	検出面
30	半円板?		4.8		13	ママ	弥生鉢体部、内外赤色	SB-51	
31	半円板		3.9		7	*	甕体部	*	
32	円板		4.1		13	*	*	甕底部	SB-9
33	*		4.4		15	*	*	*	
34	円板?		3.9		14	*	弥生鉢体部、内外赤色	SB-51	
35	円板		2.6		4	*	*	甕体部、全周研磨	SB-21
36	*		2.5		4	*	*	鉢体部、内外赤色	SB-43

(注) 遺存の項の「ママ」は実測図とおりの残存を示す。

土鍤の法量中、口径 = 最大径・底径 = 下部径・器高 = 全長に読み替える。

円板類の口径は断面位置の長さを表す。

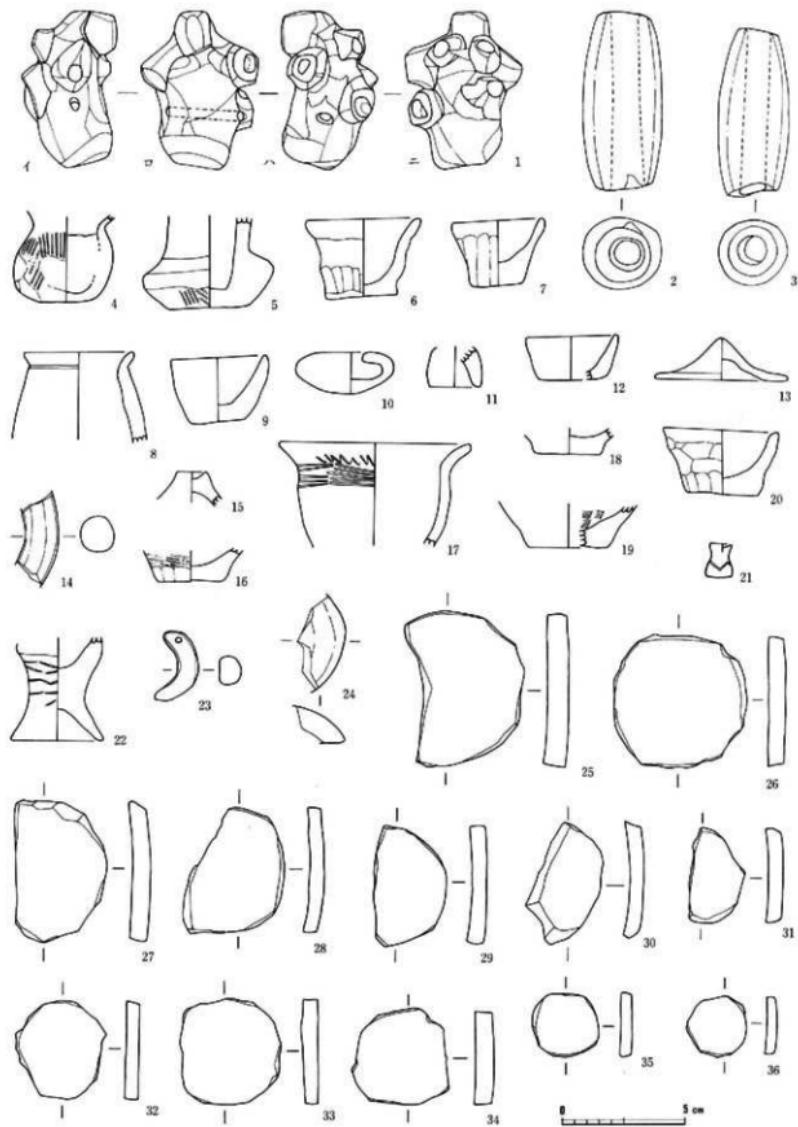
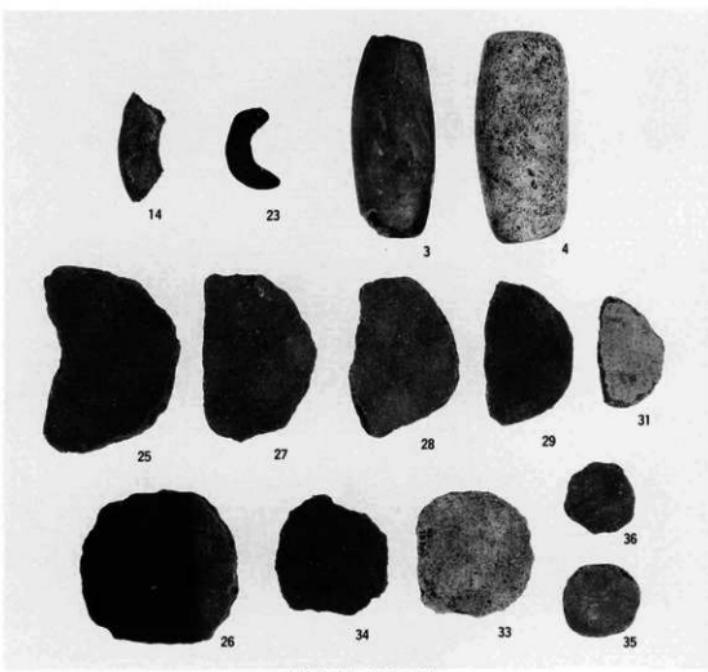


図67 土製品実測図 (1 : 2)



土製品写真（約2：3）

7 骨角製品・獸骨

骨角製品

出土した骨角製品は、2号住居址(2・5・6・15)・23号住居址(19~22)・24号住居址(14)・30号住居址(4・8~13)・7号土壙(7)であり、他(1・3・16~18)は検出面からの出土である。

1~7は角製品の素材になる鹿角で切断および製作過程のものと推定される。13・18も角先端部の切断品であるが、18の先端には削痕があり、刺突具とも考えられる。1は角座を切断した後の製品原材を切り落とす過程にあるものと考えられる。原材となる上面は削痕を消すことにより丸みを帯び、下面を削りによって平坦にしている点からみて、14のような円盤形の製品を意識しているものと思われる。角幹部・枝部の残存先端には切断痕はみられない。2は角座の切断過程にあるものの、打削用と思われるV字状の溝が盾に長く2条刻み込まれている。また、実測図の裏側には縱方向に2帯の平滑化した面を作り出しており、これ自体が製品なのか未製品なのか不明である。3は角座の切断痕が認められず、角上部を切断しており、鹿角特有の粒隆突起を削り落として平滑化している。4・5・7は基部および先端部を切り落としている加工痕はみられない。6は頭蓋骨の内面と思われる凹面が残存する。

8は鹿角製の有角柄頭で、枝部頂部は欠損し器体基部も大きく欠損する。全体によく研磨されて整形されており、鹿角の自然面と思われる部分は残存しない。器体頂部は幅1.8cmほどの隆帯部を作り出し、一側面にのみ円形の穿孔を施しているが、隆帯部のみでブリッジ状の加工は認められない。器体基部下端も削り込みによって幅1cmほどの隆帯部を作り出している。基部の穿孔は2個のみ認められ、ともに目釘穴と考えられる。茎を挿入するソケットは器体部頂部下端にまでおよび、枝部との分岐部内側にまで切り込みがおよんでいる。器体部ならびに枝部に施文等は認められない。全長12.7cmをはかる。

9・10は角先端部を利用した栓状製品で、10の頭頂部には円錐形の抉り込みが認められる。9の先端は欠損しており全長は不明であるが、頭部の最大幅は1.9cmである。10は全長6.3cm・頭部最大幅2.0cmをはかる。

11・12・17は細長い紡錘形を呈する針または筆状製品である。14は紡錘車と推定される製品で、円形を呈し、断面が凸レンズ形態となる。中央の円孔から外縁に向けて十字状に線刻が施され、各線状に1個と左右に角この小円孔が配置されている。小円孔は貫通しない。直徑5.0cm・最大厚0.9cmで、一部欠損しているが11gの重量である。

15は刻骨で、角の一面を平坦にし横方向に密な線刻を施している。呪術用あるいは楽器の一種と考えられているが、線刻面は平滑であり、一部に刻目が消えていることから、いずれにしても摩擦を伴う用途の角器と考えられる。16は弓筈で、頭部外面に鉢巻き状の彫り込みがあり、頂部からは円錐状の抉り込みがある。

19から22は卜骨である。19は右寛骨を利用してしたもので、臼状の関節部があり、実測図上部は切断されている。卜占は関節部の厚いところを避け薄い部分で行われており、焼火箸による黒色の灼痕を中心にして円形または梢円形の被熱痕を表裏両面に残す。20~22は骨の部位は不明であるが、22の上端は臼状の関節部になる。21は厚い部分の両面に卜占痕があるのに対し、20・22は薄い部位の片面のみに施される。

獸骨

最も出土量が多かった30号住居址出土資料の中から、遺存状態が良好で種類・部位が特定できるものを抽出し、写真を掲載した。イノシシの環椎・上顎骨・下顎骨・肩甲骨・焼骨・距骨・ニホンジカの上腕骨・桡骨・距骨・踵骨・指蹠骨と、イノシシ・ニホンジカの全身にわたる部位を確認することができる。

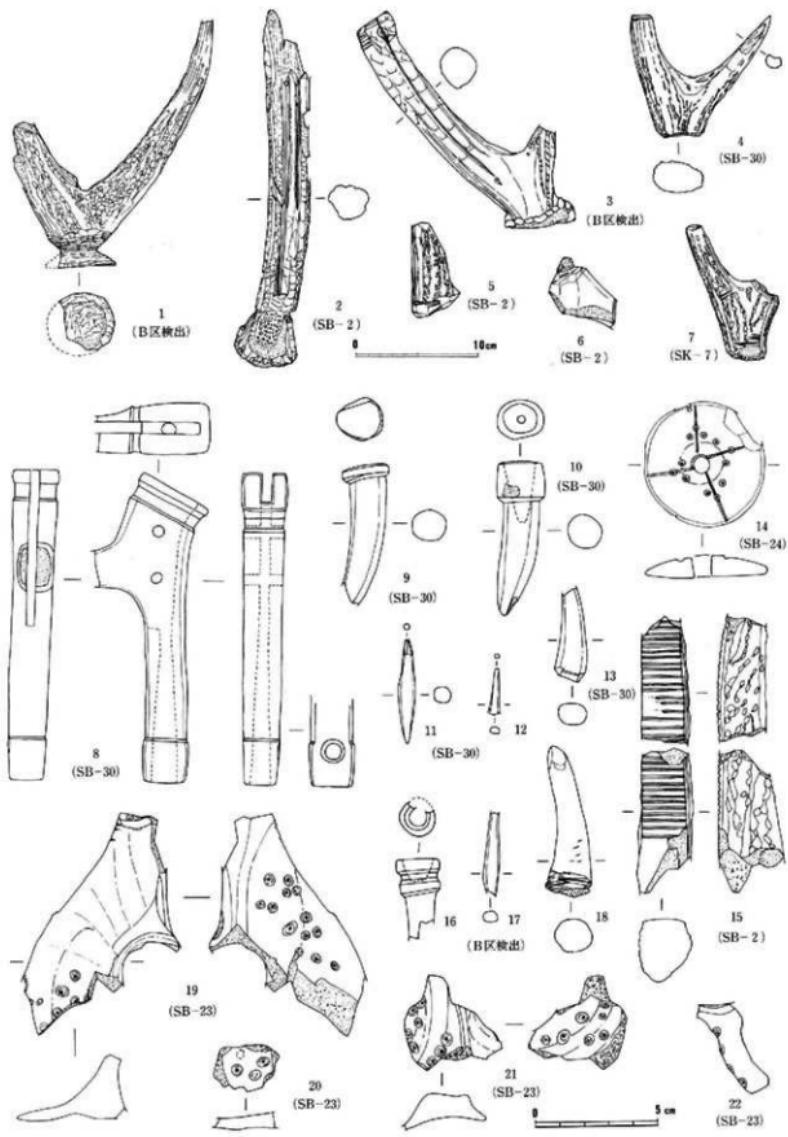


図68 骨角製品実測図（底角1:4、製品1:2）



1



3



4



5



7

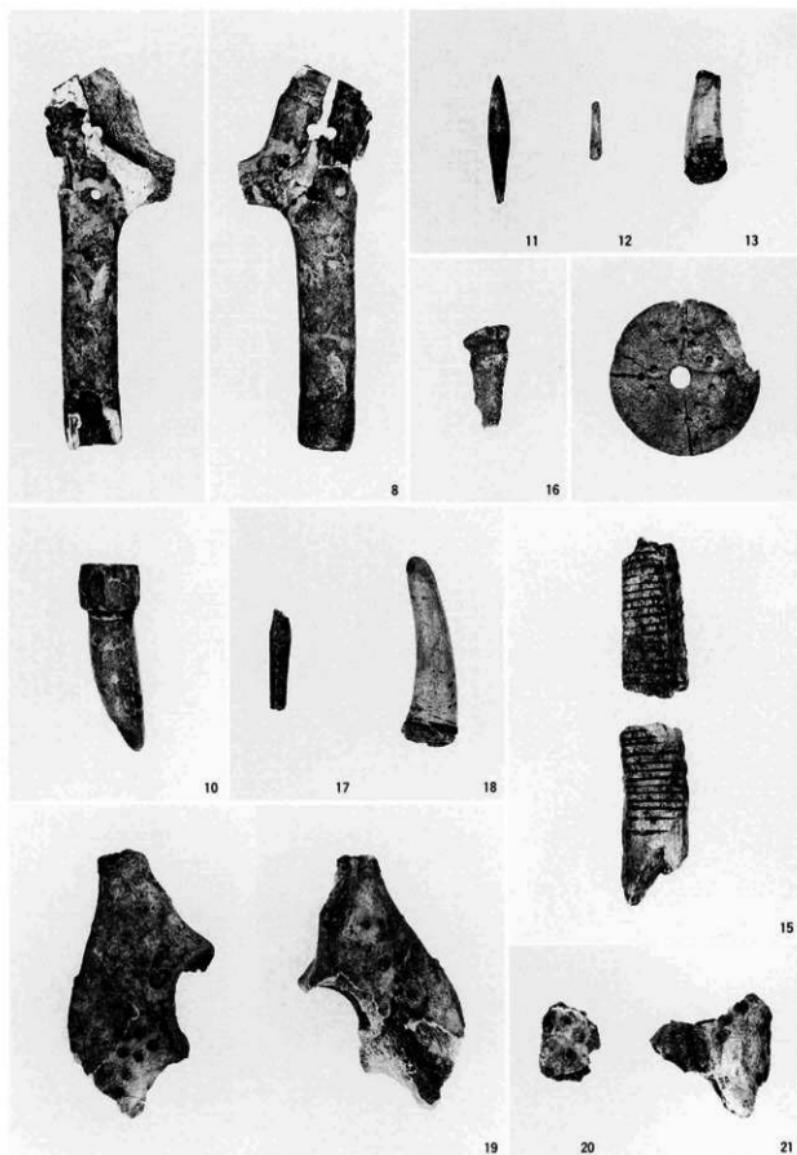


6

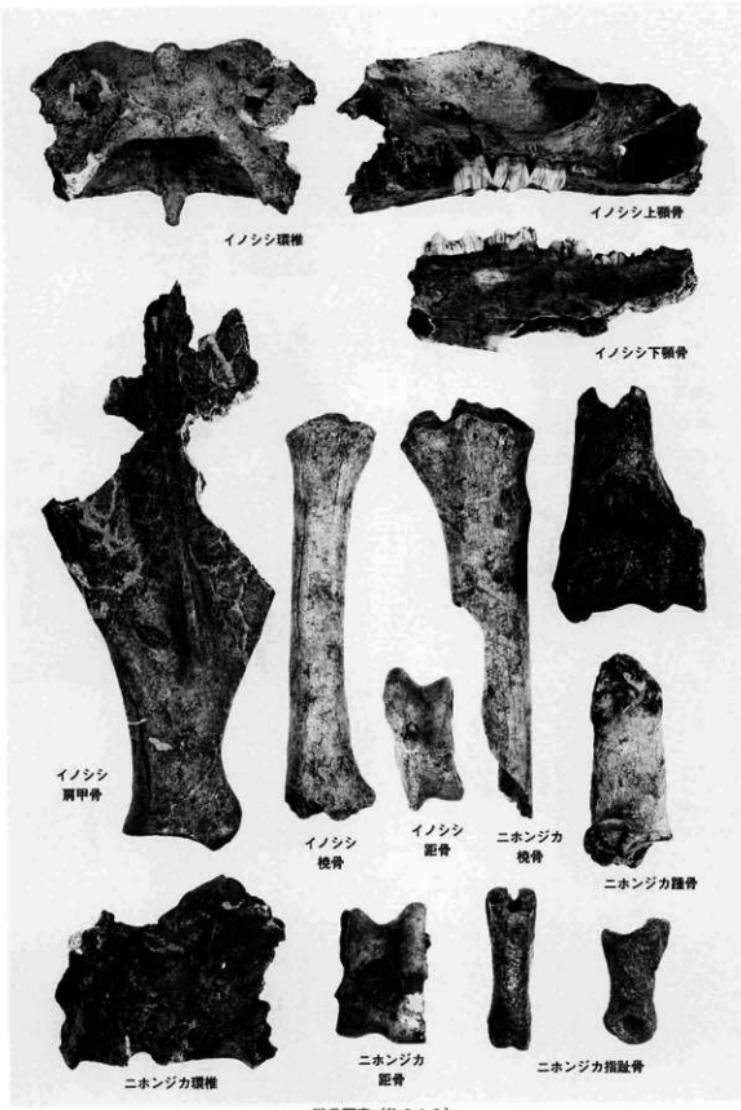


2

骨角製品写真①



骨角製品写真②



獸骨写真 (約 2 : 3)

報告書抄録

ふりがな	いしかわじょうりいせき(8)							
書名	石川条里遺跡(8)							
副書名	宮之前地点							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	青木和明、風間栄一、千野浩、矢口忠良							
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-22 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004							
発行年月日	1994年(平成6年)3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしかわじょうり 石川条里遺跡 みやのまえと 宮之前地点	長野県長野市 篠ノ井塙崎 宮之前4256他	20201	E-①	36° 33' 20"	138° 6' 25"	19910614 ~ 19911108	1,100m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
石川条里遺跡 宮之前地点	水田跡	平安	水田畦畔、水路		土師器、須恵器、灰釉陶器			
	散布地	縄文			繩文土器、石器			
	集落跡	弥生	竪穴住居	50	弥生土器、石器、 青銅製品玉類、土製品			
			溝	2	骨角製品、獸骨			
			土坑	3				
		平安	竪穴住居	7	土師器、須恵器、灰釉陶器			
			溝	4	鐵滓、羽口、土鍬			
	古墳	古墳	墳丘盛土及び埴の痕跡					
	城館跡	中世	堀		陶磁器、土器			

長野市の埋蔵文化財第66集

石川条里遺跡

— 宮之前地點 —

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会

発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 信毎書籍印刷株式会社